

桜の蕾もふくらむ福知山城

年度末近くに、NPOの仕事場・福知山から帰る途中、福知山城を訪ねた。三日天下の異名をもつ明智光秀が築城し初代城主となった。治水工事に功績を残し、現在ある町の縄張りを固めたと、土地の人々の評判は高い。1986（昭和61）年に再建されたこの大天守、小天守を支える石垣は築城当時のもので、「野面積」といって自然石をそのまま重ねる手法で、他の城では見たことがない。試に隙間を埋める小さな石に触れてみても微動だにせず、古人の匠技が組み合っただけで居るようだった。本丸と二の丸を結んだと思われる橋からの天守が安土城に似ているなど思った。私の安土城イメージは、安土城社（滋賀県近江八幡市安土町）周辺の天守閣モデルとその説明版にある消失前の安土城の骨組みなのだが、機能的でシンプルでスマートなところが近代的で、福知山城とダブったのだった。そう思いながら、参道の桜の枝に目をやると、膨らんできた蕾が目にとまった。市民もさくらまつりをこころ待ちしているとのことである。

あつた らのよし
熱田 親喜



福知山市字内記（郷土資料館）